

平成二十二年の会陽  
五〇〇周年記念事業の  
一つとして修復計画が  
始まった牛玉所殿



## 『牛玉所殿ニユース』 うしよとんでん

去る平成十九年六月七日、牛玉所殿修復奉賛会は古建築学の権威、近畿大学理工学部建築学科教授の櫻井敏雄先生を当山にお招きし、牛玉所殿の価値についての説明会を行いました。

教授の見解に、全国でも珍しい権現造様式（写真）で、本殿の上に屋根面を一点に集める宝形

屋根（写真）を乗せている事や、屋根を支える為に棟から軒先に渡る地垂木（写真）と飛燕垂木

（写真）は一般的に扇状か垂直にお互い同じ方向であるのに対し、地垂木は垂直に、飛燕垂木は

扇状に広がる構造は他に例が無い事などの特徴をあげられました。この複雑な設計と高度な技術

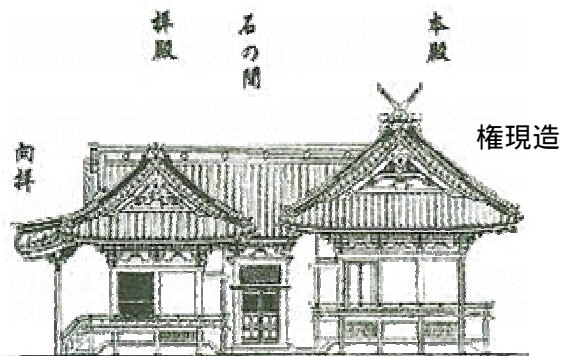
は建築上苦難を要し、現代では建立不可能な、まさに建築の最終形態とも言うべき高い評価を頂

きました。

また、牛玉所殿を建てた宮大工 田淵 勝義棟梁は古建築の伝統技術を熟知している上、それを芸術として独自の意匠を凝らす日本有数の優秀な宮大工であったであろう事も合わせて評価し、牛玉所殿は明治に建てられたものとして古建築史上最高傑作で、重要文化財指定とされるに相応しいと指摘されました。

当修復奉賛会はこの文化財的要素を持つ部分を損なわない修復方法をとり、重要文化財指定に向けての第一歩を踏み出す為、十九年七月末日から約一年間、櫻井教授率いる近畿大学古建築研究チームによって境内のお堂全体を含める現状調査を依頼しました。

先生の名言でもある「文化財の価値は元からあるものではなく、視付けてあげる事が大切です」というお話を聞いた私たちは、西大寺の未知なる大きな発見に期待を寄せています。



宝形屋根



地垂木



飛燕垂木